



病気の予防のために 検診・人間ドックでは、 どんな検査をするの？

日本臨床検査専門医会 堀川龍晃



検診や人間ドックを受診する前に、まず自分は何を目的として検診や人間ドックを受けるのかをはっきりさせましょう。即ち、①家系に癌の人が多く、自分もそろそろ癌年齢だから癌早期発見の目的で検診・人間ドックを受けるのか。②自分としては特に不調な所や自覚症状は無いけれども（問診をしていると本人が自覚をしていないだけで、実際は症状として既に出ていっているものも結構あります）、予防可能な重大な病気（生活習慣病や遺伝的素因の寄与が大きい高血圧症、糖尿病等）を見逃していないか、それらを探したくて受けるのか等です。何故なら、目的によって検査の内容も当然異なってくるからです。

現実問題として癌を完璧に予防は出来ませんが、最近では癌の早期発見のみに絞ったPET検査（体内腫瘍の悪性度をとらえて癌の診断する）なども出てきています。一般的に病気の予防と云う観点からは②を主たる目的として検診や人間ドックを受診することになります。予防可能という意味の中には、(1)早めに発見して治療を開始すれば、最悪な結果を完全ではないにしろ高い確率で回避出来る、(2)既に病気にはなっているが、増悪させないで済ませられるという二つの意味があります。(1)の例としては、高脂血症を早期に発見し治療を開始すれば脳血

管障害や心筋梗塞などをかなりの確率で予防できると云うことです。(2)の例としては胆石症などがそれに当たります。皆さんの中には検査と想っておられない方もいるかもしれませんが、一番大切な検査は問診・診察（既往歴・家族歴の聴取と現在の状態の診察）で、その後に行われる検査ということになります。検診などでは予め検診の目的が決まっている為、当然のことながら検査項目が決まられている場合が殆どですが、人間ドックの方は夫々の施設が趣向を凝らして検査項目を決めています。左に検診や人間ドックで自分が調べたい疾患（臓器）と、その診断に必要な検査の一覧を示します。家族歴や御自分の生活習慣などを考慮して自分にはどんな検査が必要なのか、それが受診する人間ドックのコースにちゃんと含まれているかを確認して、コースを選ぶ参考にして下さい。

目的とする疾患(臓器)	診断の為に検診・人間ドックなどでおこなわれている検査 (望ましい検査を含む)
肥満関連	身体計測 (内臓肥満を確定する為には腹部CT検査)
呼吸器疾患	胸部レントゲン検査、肺機能検査、血液検査 (腫瘍マーカーを含む)、肺CT検査、喀痰細胞診
循環器疾患	胸部レントゲン検査、心電図、心臓負荷検査 (トレッドミル)、心臓超音波検査、(高脂血症・糖尿病の有無確認の為の検査)
食道・胃・十二指腸の疾患	上部消化管造影 (又は内視鏡検査)、便潜血検査、血液検査 (腫瘍マーカーを含む)
大腸疾患	注腸造影 (又は大腸内視鏡検査)、便潜血検査、血液検査 (腫瘍マーカーを含む)
直腸・肛門の疾患	触診、直腸鏡検査、便潜血検査、血液検査 (腫瘍マーカーを含む)
腎臓・膀胱疾患	尿一般・沈渣、血液、腹部超音波検査 又は 腹部CT検査、尿細胞診
肝臓・胆嚢・胆管の疾患	尿一般、血液、腹部超音波検査 (又は腹部CT検査)、血液検査 (腫瘍マーカーを含む)
高脂血症	血液 (家族性高コレステロール血症が疑われる時はアキレス腱の軟部レントゲン撮影も必要)
糖尿病	75gブドウ糖負荷試験 (必須)、グリコヘモグロビン、(内分泌機能検査、眼底検査、尿中トランスフェリン)
甲状腺疾患	触診、内分泌機能検査(血液)、血液検査 (腫瘍マーカーを含む)、(頸部CT検査)
高尿酸血症 (痛風)	尿一般・沈渣、尿酸 (血液・尿)、クレアチニン (血液・尿)、(腹部超音波検査 (腎結石確認の為))
貧血・血液癌	血算、血清鉄、フェリチン、LDH、(LDHアイソザイム、TIBC、ビタミンB12、葉酸)
寄生虫	便虫卵、ぎょうちゅう検査
脳の疾患	MRI、MRA、眼底検査
整形外科的疾患	胸・腰椎レントゲン検査、MRI検査、骨塩定量検査・血液 (骨粗鬆症)
眼疾患	視力、視野、眼圧、眼底検査
耳	聴力検査
子宮・卵巣の疾患 (女性)	内診、細胞診、骨盤部MRI (又はCT)、卵巣超音波、血液検査 (腫瘍マーカーを含む)
前立腺の疾患 (男性)	触診、血液検査 (腫瘍マーカーを含む)、超音波検査
乳癌	触診、マンモグラフィ (レントゲン検査)、血液検査 (腫瘍マーカーを含む)